

当院でのクロスミキシングテストにおける数値判定法の評価

◎堀 優花¹⁾、宮崎 勢子¹⁾、大串 菜々実¹⁾、桜田 菜奈¹⁾、築地 秀典¹⁾、中村 朱¹⁾、松下 義照¹⁾
地方独立行政法人 佐賀県医療センター好生館¹⁾

【目的】クロスミキシングテスト（CMT）は、波形パターンによる数値判定法が一般的であるが、判定に苦慮する例も多い。今回、既報の数値判定法の4項目の有用性を後方視的に評価した。【対象および方法】対象は、当院で2023年～2025年にAPTT延長を認めCMTを実施し、要因が特定できたループスアンチコアグラント（LA）陽性6症例、凝固因子低下7症例の計13症例とした。CMTは、分析装置はCN6000（システムズ株式会社）、試薬にレボヘムAPTT-SLA（同社）を用いた。評価方法は目視判定法と既報の数値判定法であるindex of circulation anticoagulant (ICA)、cross mixing test index (CMT index)、1:1% Correction (1:1% Co) の3項目の混和直後と加温後およびWaS-ALD50法を評価した。【結果および考察】目視判定法での感度はLA陽性症例は66.7%、凝固因子低下症例は100%であり、LA陽性症例の感度が低かった。LA陽

性症例での各数値判定法の感度はICA、CMT indexの混和直後、加温後ともに83.3%であった。1:1%Coの混和直後、加温後は50%、WaS-ALD50法は83.3%であった。LA陽性症例の感度は目視判定法よりもICA、CMT index、WaS-ALD50法が高かった。目視判定法では抗リン脂質抗体の低力価症例（4症例）で誤判定が多かったが、4症例中3症例でICA、CMT indexはLA陽性と判定していた。誤判定であった1症例は第VIII因子活性も低下しており、ほとんどの数値判定法で凝固因子低下と判定したが、WaS-ALD50法はLA群と判定した。ICA、CMT indexの凝固因子低値症例の感度は、71.4%、85.7%とどちらも高く、判定の鑑別に有用だと考える。【まとめ】目視判定法で診断と一致しなかった症例で、数値判定法では正確に判定できた。したがって数値判定法と併用することで判定の一助になると考える。

連絡先 0952-24-2171（内線 1680）